

熊 本 外 科 専 門 研 修 プ ロ グ ラ ム

緒言

熊本大学は熊本県唯一の特定機能病院として最先端で高度な医療を担っています。一方、熊本県内の殆どの公的病院・センターの外科は、熊本大学5外科の出身外科医が勤務しており、日頃より極めて密に連絡し、相互に協力体制を構築し、人事交流も盛んに行っております。熊本プログラムは、熊本大学5外科の診療科長と連携施設が互いに協力し、外科を目指す若い医師に3年間で一般外科からサブスペシャリティ領域まで幅広く、またバランスよく効果的に臨床力を身に付けることができる魅力的なプログラムとなっております。一人でも多くの医師が本プログラムを選択し、将来日本の外科を支える前途有望な外科医として成長してくれることを心より期待しています。

(統括責任者：心臓血管外科 福井寿啓)

① プログラム概要

熊本大学病院の外科分野（呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、小児外科・移植外科、乳腺内分泌外科）を基幹とし、熊本県内と九州地区の関連病院、施設等を含めた病院群を構成しています。従来からの連携をもとに、先進的で高度な医療から標準的な外科医療、また救急や地域医療に至る幅広い外科研修を行います。これにより、一般外科医療に関する標準的な知識とスキルを修得し、プロフェッショナルとしての態度を身につけ、総合的な外科医療を担うことが可能です。また、外科専門医のサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科）とそれに準じた関連領域の研鑽も同時に行うことで専門性の高い外科修練を行うことができます。定員は20名で病院群には十分な症例数と指導医師数が確保されています。

② 研修の目標

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持つ、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 地域医療を支え、国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科）またはそれに準じた外科関連領域の研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

③ 研修の方略

- 1) 外科専門医は初期臨床研修修了後、3年（以上）の専門研修で育成されます。
 - ・3年間の専門研修期間中、基幹施設と2つの連携施設で研修を行います。連携施設として熊本県内を中心とした中核病院、公的病院等27施設（くまもと森都総合病院、人吉医療センター、くまもと県北病院、出水総合医療センター、南九州病院、国立病院機構 熊本南病院、球磨郡公立多良木病院、大牟田天領病院、天草中央総合病院、天草地域医療センター、宮崎県立延岡病院、山鹿市民医療センター、新別府病院、水俣市立総合医療センター、済生会熊本病院、熊本中央病院、熊本再春医療センター、熊本労災病院、熊本医療センター、熊本地域医療センター、熊本市市民病院、熊本総合病院、牛深市民病院、

荒尾市立有明医療センター、西日本病院、熊本赤十字病院、高野病院）が登録されています。

- ・ 専門研修の 3 年間で各医師に求められる基本的診療能力・態度と外科専門研修プログラム整備基準に基づく知識・技術の習得を目標に、その年度ごとに達成度を評価して、専門医としての実力をつけられるように配慮します。研修中に修了判定に必要な規定の経験症例数の外科手術修練を行います。

- ・ 専門研修期間中に大学院へ進むことも可能です。また、専攻医の希望と研修達成状況に応じて、国内外の施設への短期留学も可能です。

2) 年次毎の専門研修計画

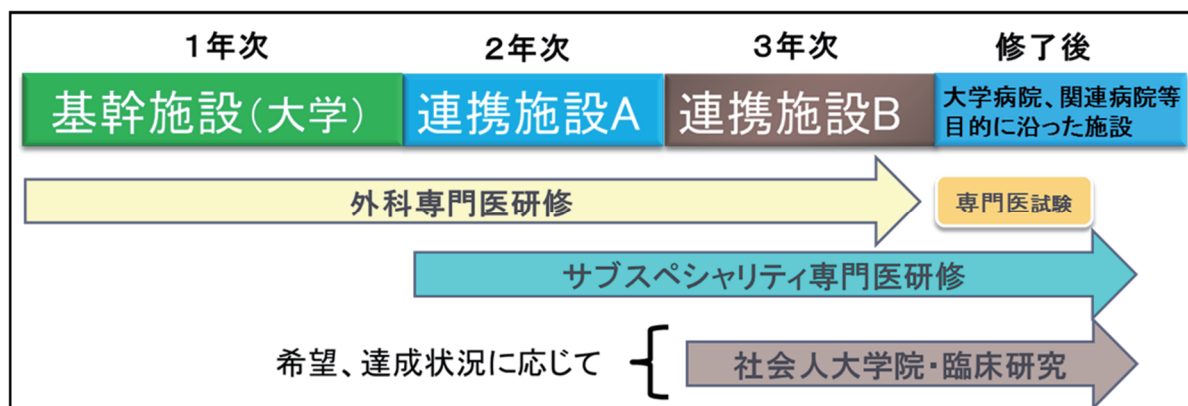
- ・ 専攻医の研修計画は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下は年次毎の研修内容・習得目標の目安です。

- ・ 専門研修 1 年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的に行われるカンファレンスや、抄読会、研修施設主催のセミナーの参加、e-learning 等の自己学習を通して専門知識・技能の習得を図ります。

- ・ 専門研修 2 年目では、上記の向上に加えて、知識や技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。原則的にサブスペシャリティ領域の研修も開始し、学会・研究会への発表などを通して専門知識・技能の習得を図ります。

- ・ 専門研修 3 年目では、チーム医療においてリーダーシップを持って診療にあたり、後進の指導にも参画します。実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を育成します。また、サブスペシャリティ領域専門医取得に向け、より高度な専門研修へ進むこともできます。

<専門研修パターンの例>：1 年目基幹施設の場合



④ 研修の評価

専門研修の各年次で、外科専門医の習得目標について達成度を評価し、研修計画を作成します。

- ・ 専攻医は経験症例数(NCD 登録が必要)・研修目標達成度の自己評価を行います。
- ・ 指導医は専攻医の研修目標達成度の評価を行います。
- ・ なお、これらの評価、実績登録には日本外科学会の「研修実績管理システム」を用い、研修状況についてはインターネット上での管理を可能としています。研修医、指導医は自身の ID でシステムに登録し、研修履歴、手術症例、学術活動を記録する必要があります。
- ・ 3 年間の総合的な修了判定をプログラム管理委員会で審査し、研修プログラム統括責任者が修了を認定します。この修了判定を得た後、外科専門医試験の申請を行うことができます。